

# ハンガリーのローカル線を訪ねて

-2009-初夏 前編

高島 伸幸

## はじめに

5月のGW後に続けて休暇を取得することができました。今年はどこに行こうかと思案していましたが、気になっていた狭軌鉄道が走っていて、温泉も楽しめるハンガリーにすることにしました。燃油サーチャージも軽減され、エールフランスのサイトで航空券を購入すると12万円ほどです。しかし、新型インフルエンザの流行が始まり、この旅行も中止かと直前までやきもきしましたが、ハンガリーは感染国ではなく、出発までに会社の渡航自粛の指示がなかったため、いつもの夜行便で出発することにしました。

## 2009年5月14日(木)曇り

夕方上野からイブニングライナー53号で成田空港へ向かいます。当日の16時までに前売発売所で買っておけば、4号車の指定席を確保できます。発車直前になると発売機の列に並んだ上に、乗車口の列にまた並ばなければなりません。停車駅は若干多いものの400円で乗れるのはお得です。

成田を出ると乗客は僅かで。終点成田空港に降りたのは数名でした。

チェックインはWeb上で済ませ、搭乗券は自宅で印刷してきました。便利な時代になったものです。チェックインカウンター入口の係員に搭

乗券を提示すると、預ける荷物がないことを確認して、機内持ち込みのタグをつけてもらい出国審査へ。並ばなくていいのは大変楽です。

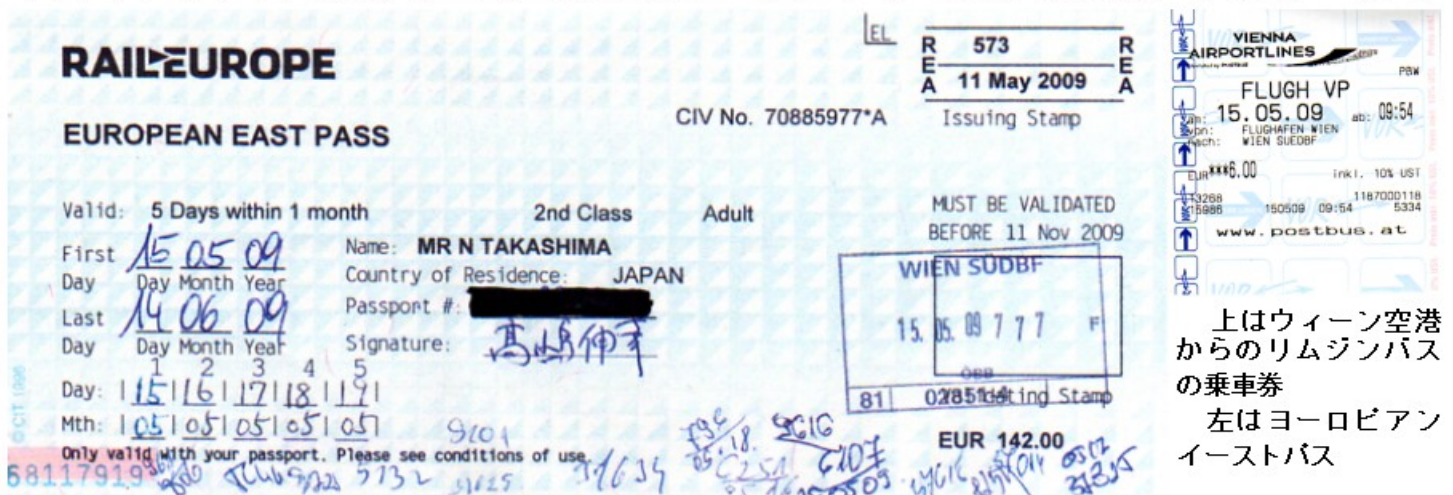
シャワーを浴びてから搭乗口前へ。機材がなぜかB777-300からB777-200に変更になっていて、搭乗すると、21:55にAF277便は定刻に出発です。夕食を取ると眠くなり、夜中何回か飲み物を取りに行った以外はひたすら寝ていました。

## 2009年5月15日(金)曇/晴

朝食を食べると4:00頃パリ到着です。飛行機を降りても朝が早すぎて空港機能は動いていません。出口の入国審査には係員がいますが、乗り継ぎの方には居ません。みなさん順序よく並んでますが、おそらく5時くらいにならないと来ないでしょう。1時間も待てないので、ベンチに座って、手持ちのユーロで自動販売機で水を買って、今後の準備をしました。

やはり5時頃に乗り継ぎの入国審査の係員がやってきました。パスポートにスタンプをもらうと外に出ます。税関などは申告しない限りあってないようなもの。そもそも係員が見えません。それより、検疫はどこ・・・やっていない。そして誰一人マスクをつけている人はいません。

ハンガリーは最近シェンゲン協定に入ったのでヨーロッパ内は国内線扱いです。ターミナル



上はウィーン空港からのリムジンバスの乗車券  
左はヨーロッパ内は国内線扱いです。ターミナル



ビルを横断して、歩いて搭乗ゲートのある乗り継ぎ先のターミナル2Dへ向かいます。もう一度セキュリティチェックを通過して、搭乗口へ。

7:15発AF1138便に搭乗します。ブタペスト便は乗継が悪いので、とりあえずオーストリアのウィーンへ向かいます。ウィーンからハンガリーはすぐなのです。機内ではサンドイッチとコーヒーのサービスがありました。到着地上空で何回か旋回して、15分遅れの9:30に到着です。

両替所にハンガリーフォリントの現金があったので少し仕入れておきます。ターミナルビル正面から10:00発のエアポートリムジンのポストバスでウィーン南駅へ向かいます。鉄道もあるのですが、ちょうど時間が合いませんでした。きっぷは乗車時に運転士から買いました。乗ってしまえば高速道路を利用して20分で駅前へ到着です。

まず、ヨーロッパianイーストパスにバリデイト印を押してもらいます。窓口に行くと、ここでは案内所に行くよう言われました。売店で缶ビールと焼きソーセージを買い込んで、10:48発ER9447レに乗り込みます。車両は新型の低床車です。でも座席はボックスシートでテーブルもあります。ボックス一人くらいの乗車率で静かにすべるように出発しました。市街地の数駅に停まった後、区間運転列車のある間はノンストップです。車窓は畑がひたすら続く。

ローカル線の分岐するBruck a.d. Leithaからは各駅に停まるようになりました。ほとんどのお客が降りる小駅があり、この先で架線柱など



新型低床車 ウィーン西駅にて

地上設備の形が変わります。どうや国境を越えたようです。

Hegyeshalomが運転上の国境駅らしく、乗務員が交代します。この先乗客が増えて私のボックスも向かいに座る人が出てきました。住宅が多くなるとGyőrに12:13到着です。

ウィーンは曇りで肌寒かったのですが、国境を越えると晴となり、暑い。街の中心まで出て行くと、シティバンクがあったので必要な現地通貨を自分の口座から下ろしておきます。しかし、駅構内の売店でマニアックな絵葉書を買っていたので即購入です。隣の郵便局で切手も買っておきます。

13:20発EC961レ LISZT FERENC号に乗車します。オーストリア所属車両でした。お昼がまだなので食堂車へ。ビールを飲み食事をしてコーヒーを飲む。一人勤務で配膳や調理、会計もこなします。だから料理は半製品を温めるだけのようですが、それでも食事が出るのは助かります。ドナウ川を眺めて、丘陵地を越えるとBudapest keleti (東駅)に14:49に到着しました。

乗り継ぐ15:03発5506レはホームの向かい側に停車しています。水だけ買って乗り換えると、非冷房の在来型客車で、開放式ボックスシートが並んでいます。しばらく主要駅に停車して、Hatvanからは各駅に停車しました。

Egerへの分岐駅Füzesabonyで上下列車と相互接続を取りました。上りの特急が遅れていて、10分ほど発車が遅れました。本線から左にカーブし支線に入ると単線で両側に畑が広がります。途中駅はホームが無く、直接線路脇へ降りてい



快速列車 Egerへの分岐駅Füzesabonyにて



ました。右手に貨物ヤードが広がり、右手から線路が合流するとEgerへ17:34に到着です。

この先は4両編成のレールバスに乗り換えます。おそらくチェコで乗ったものと同型ですが、車内は4人のボックスシートが並んでいて、背もたれも普通のものを使っています。

17:46発35516は定刻に後戻りするように発車します。すぐに左に180度カーブして、勾配を上ってゆきます。眼下にEgerの市街地が広がってきました。城の脇を通り、駅に停車すると後ろのほうに小学生がたくさん乗車します。

鬱蒼とした溪谷沿いを右に左にカーブしながら勾配を登ってゆき、溪谷を抜けると高原が広がりました。駅には鉱石の積み込み設備の跡や工場への引込み線があります。右手の山には削られた跡があり、おそらく石灰石を産出していたのではないのでしょうか。

分水嶺を越えて、下り勾配になると手動式の遠方信号機が。続いて腕木式の場内信号機が。右手下には谷沿いに町並みが見えます。18:52に今日の宿泊地Szilvásváradに到着です。ホテルは事前にネットで予約しており、宿泊確認書と地図をプリントアウトして持ってきたから大丈夫です。駅前から坂を下り住宅街を行き、15分ほど歩くと町の中心に入り、ホテルは見つかりました。一帯はリゾートのようで、緑が多く景色が良いです。

フロントに宿泊確認書を見せるとすぐに通じました。十分きれいなホテルです。シャワーとトイレが付いて5000円程なら文句はありません。翌朝の出発が早いので、先に会計を済ませてお



レールバス Szilvásváradにて

きます。このホテルはレストランも兼業していて、他に適当なレストランは見当たらないので、ここで夕食をとることにしました。

## 2009年5月16日(土)曇/晴

5:30に宿を出発。前日に言っておいたので、フロントのお姉さんが眠い目を擦りながら出てきて鍵を開けてくれました。朝食を取れないので残念です。朝のすがすがしい空気の中駅へ向かうと、駅では宿泊した乗務員が外で洗面をしていました。きっぷを確認し、行き先を告げると、あの列車に乗るよう案内してくれました。

5:55発35540は単行のレールバスです。車内は暖房が入っていて、Egerからの列車の接続を受け、数名の乗客を乗せて発車すると勾配を下り始め、駅ごとに数名の乗客を乗せてゆきます。路盤が悪いのか、谷間の平坦地でも時速は30kmくらいしか出ません。この区間34kmを所要77分掛かりました。しかし、乗客がいらないわけではなく、単行のレールバスに程ほどの乗りです。まあバスでも十分ですが。(この区間はその後廃止になりました。)

Putnok7:12着。乗り換えた7:16発の5449はDLが2両の客車を牽引します。ビニールレザー張りの8人コンパートメントに落ち着くと、途中駅から電化線となりました。ELは貨物列車のみで旅客列車はDLのままです。工場が多くなってくるとMiskolc Tiszaiに8:13到着です。

朝食を仕入れて、8:37発5200の発車ホームへ行くとちょうどブタペストから列車が到着しま



5449 Putnokにて



した。しかしこの列車は大部分の車両がここで切り離され、国境駅のSatoraljaújhelyまで行くのは3両だけだという。(うち1両は1等車)ここからは各駅に停まり、この区間の普通列車も兼ねているので、座席は既に埋まっていて、デッキに立ってゆきます。DLが連結されて、5分遅れで出発します。仕方なくサンドイッチを立ったまま食べます。

Szerencsには5分遅れのまま9:16に到着です。ELが4両の客車を牽く接続の本線普通に乗換えると、こちら5分遅れの9:20に発車しました。こちらはガラガラです。ぶどう畑が多くなるとワインで有名なトカイを通ります。Tisza川を渡るとRakamazに5分遅れの9:51に到着しました。

事前のネットの調査で駅前からナロー路線の一方の終点まで路線バスがあるのですが、時間が合わないことは分かっていました。距離がそれほどでもないのにタクシーを利用しようと思ったのです。しかし駅前にタクシーは居ませんでした。

仕方なく、呼んでもらおうと駅長室に相談に行きます。筆談で尋ねるとこの街にタクシーは無いとの事で、鉄道電話で近隣の駅に問い合わせさせてくれましたが、トカイどころかMiskolcかNyíregyházaでないとないそうです。仕方なく、駅前のバス停へ。しかし、Nyíregyháza行きのバスがちょうど行ってしまいました。次の普通列車ではナロー路線の発車時間に間に合いません。

どうしようかと天を仰いでいると、そこに駅長が走ってきました。「大丈夫だ。車が来るからここで待て。」と、言っているらしい。えっ？



?? どういうこと??? 丁寧にお礼を言い、待つことにしました。

しばらくすると青年の運転するきれいなシトロエンのステーションワゴンがやってきました。駅長と手を挙げあって合図をしている。もしかしたら駅長の息子なのかもしれません。本当にハンガリーの人は親切です。荷物を後ろに載せてまずは料金交渉。タダでというわけにはいきません。キロ数を聞いてきたので事前に用意してきた地図から約12kmほどと言うと、2000Ftで交渉成立です。

畑の中の並木道を気持ちよく走ります。集落に入ると必ず速度を落とします。なかなか安全運転です。Balsaiの街に入ったのですが、駅の様子が分かりません。踏切があったのですが駅が見えません。青年は携帯で駅を探そうとします。そのとき、DLの紫煙が見えました。駅前の道路で降ろしてもらいました。

ここはBalsai駅で終点のBalsai Tisza-partではありません。休憩していた乗務員に確認すると「今日は運転日ではない」と注釈を指差します。折り返しもこの駅から出発するとのことで、写真を撮っているとDLの運転室の撮影許可が出ました。

どこからともなくおじさんが自転車でやってきてデッキに載せて乗り込んできました。すると11:20発31625vは静かに発車です。小型DLが牽引する1両の緑色の客車は窓にひびが入っていて、座席は木製のベンチ。そして大きなストーブがかなりの場所を取って置いてあります。なおこの客車は1960年製でした。左手には池があり、





家畜が放牧されています。ほとりにはレストハウスもあり、折り返して何も無いという事態は避けられそうです。

市街地に入ると、道路端の併用軌道の用な所をゴロゴロ走ります。途中の停留所からちらほらと乗客が乗ってきました。市街地から出ると川の土手上を走ります。車掌が検札に来たのでヨーロピアンイーストパスを見せるとちょっと見て返してくれました。地方鉄道扱いのようですが、ハンガリー鉄道の乗務員なので使えるようです。

土手を降りると市街地に入ります。この区間1.6kmを44分掛けて走るので。約時速22km/hでそのくらい遅い。路盤は草生していて、バラストは無く、レールはへこへこ。高速を出すと脱線するだろう。列車が来なければ廃線跡である。

畑の中を走り、分岐駅のHerminatanyaに到着しました。ここで上下列車が交換し、かつ分割併合するはずですが。私はもう一方の終点のDombrád行きに乗り換えるのですが、おぼちゃん駅長にどれに乗るのかと尋ねると、「無い」と答えます。なんと、乗車予定列車は運休です。乗ってきた列車は併合せずに折り返しBalsai行きに。Dombrádからやってきた列車も併合せずにNyíregyháza NyKへ行きます。

時刻表を見せると、機関士らしいおじさんが、いったんNyíregyházaに行き、次のDombrád行きに乗るよう教えてくれます。これで最初に考えた予定に戻ってしまいましたが、その予定の場合、Nyíregyházaから今の運休列車に当たってしまっていて、全線踏破は無理になっていたとこ



道路端の併用軌道をゆく

ろでした。やはり朝の無謀なRakamaz下車は正解だったのです。

仕方なくNyíregyháza NyK行きに乗車します。途中の無人駅ではこの列車に乗らない人がいるので車掌が声を掛けると先程の運休列車を待っているようでした。次の列車を利用するように言っていますが、次の列車は3時間後です。

畑の中をトコトコ走ります。森の中に入ると、温泉前に停車。運休列車を待っていたお客が車掌に文句を言っています。勾配を上がり、本線をオーバークロスして本線と並行して走りますが、相変わらず速度は上がりません。市場のようなところの前の駅で停まると運休列車を待っているお客がホームに寝そべっています。Nyíregyházaの駅前に13:16に到着しました。乗客を降ろすと、立て替えた近代的な駅舎の前を古典的な列車が横断してゆきます。車庫はこの先にあるようです。

昼飯を食べようとレストランを探しますが駅ビルは空きテナントばかりでスナックコーナーさえありません。仕方なく、バーで瓶ビールを飲みます。冷房が効いているのが唯一の救いです。外へ歩いて探しに行く気力がありません。

発車時間が近づいて駅前の乗降場へ行くと、DLの重連が3両の客車を牽いてやってきました。車掌に聞くとDombrád行きは後ろの2両のようです。14:30発31624は定刻に出発して、各駅で待っていた乗客を次々と乗せてゆきます。

来た道に戻り、分岐駅のHerminatanyaに到着すると、Balsaiから来た列車がNyíregyházaへ向けて発車して行きました。先頭のDLを切り離し



31653L Dombrádにて



て、次位のDLでポイントの先まで押し戻しました。客車の次位のBalsai行きの部分が切り離されて、ポイントを変えてから次位のDLが引っ張ってBalsai方面へ向かいました。そして先頭のDLがやってきて残りの2両に連結しポイントを元に戻して発車です。しかし、後ろ1両切り離すため、前の車両へ移るように言われます。結局1両編成で行くようです。

右へ90°カーブして、畑の中をトコトコ進みます。市街地に入ると、道路端の併用軌道の用な所をゴロゴロ走ります。これの繰り返しです。だんだんお客は減ってゆき、最後にはおじさんと2人だけになりました。

Dombrádに16:45到着しました。バスで戻りたかったのですが、折り返し時間が無く、バスがあるかどうか確認できなかったのも、仕方なく安全策を取り折り返すことにしました。三角線もありましたが、機回しをして31653はDombrád16:56に出発しました。なお、この列車が上り最終です。

夕暮れの中しばらくは貸切でしたが、途中からにぎやかなジプシー一家が乗り込んできて大騒ぎとなりました。客車の中で一家総出で行商の売り物の衣類を片付け始めたのです。

分岐駅のHerminatanyaで今度は併合です。DLが離れてポイントの先へ行き、ポイントが変わると、Balsaiから来た列車が進んでゆき、先に行ったDLと連結しました。ポイントを元に戻して、バックして私たちの客車と連結して発車しました。Nyíregyháza NyK.に19:11到着です。51kmを2時間ですから、やはり平均時速25km/hです。



6107 Hajdúszoboszlóにて



31634 Dombrádにて

(残念ながら、この地方鉄道2路線はすでに廃線となっています。)

Nyíregyháza19:41発の6251に乗車します。紙の時刻表上は土休日運休列車のはずなのですが運転していました。確かにネット上の検索では引っかかるのです。この列車が無いと間隔が何時間も開いてしまいます。8人コンパートメントを占領してゆっくりします。

Hajdúszoboszlóに20:47到着して、駅前に出るとタクシーはいません。ちょうど路線バスが発車するところで手を振ると停まってくれました。持参の地図を見せると運転手は乗れといい、180Ft払います。どうやら列車に接続している、ホテルなどのある中心街へ向かう市内バスのようです。駅は街外れにあり、何もありません。

中心部に入ると次々に乗客は降りて行きます。終点のバスターミナルで下車すると。辺りは暗いのですがかなり賑わっています。周辺地図と見比べてネットで予約したホテルへ向かいますが、それらしい場所は繁華街から外れ、静かな住宅地の中でした。

チェックインすると食事はどうするかと聞いてきました。まだだというとレストランでどうぞとの事で、これは助かりました。一応4つ星ホテルで部屋もソファなどが置いてあり広い部屋でした。これでシャワートイレ付きで7000円程とは素晴らしい。レストランへ行くとまだ1組食事をしていました。〈つづく〉